日刊 動労千葉
84. 8. 9
No. 1712
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

奴隷の道を強要する 動労「本部」委員長 佐藤

動労40回全国大会批判 その2

動労「本部」革マルは、七月一七日から開いた第40回全国大会において「労働運動が後退局面にあるなかで、国鉄を国鉄として維持し『職場と仕事と生活を守る』ためには『再建フォーラム』設置が唯一の〝たたかい〟とする「労資協調」「経営参加」「産報化」路線を決定しました。

自民党、国鉄当局のフトコロに飛びこみ、戦闘的国鉄労働者の闘いを破壊することに生き残る道を選択した動労「本部」革マルを労働運動から一掃しなければなりません。

反労働者的「動労提言」方針の全国化を呼びかける佐藤「委員長」

第一日目、あいさつに立った委員長・佐藤は、「国鉄の『分割・民営化』は、赤字や長期債務を解消できるという政策や展望の片りんもない出口なきトンネルであり、国鉄を国鉄として維持し職場と仕事を守るために、骨身を削っても『動労提言』の実現を」と述べました。

『動労提言』とは、「国鉄危機を国民の支持を得ながら乗り切っていくためには、国鉄労働者も骨身を削る努力を立証しなければならない」とし、「要員も、賃金も、車両も現行のままで労働条件の悪化もいとわず、これまで以上に仕事をしよう」という「働こう運動」に他なりません。

四月十三日、「動労道本」は「ローカル線を守り発展させるための私たちの考え」を発表し、ワンマンレールバス導入などの要求を行うとともに、この構想実現のために列車の増発やワンマンレールバス運行などの際、休み時間の削減や運転士による車両清掃など労働条件の強化も受け入れるとしたうえで、自民党、経営者協会等とも共闘するとの方針を打ち出し、動労「本部」はこれを「動労提言」として全国的な運動を展開しているのです。

このように、当局に「労使会議」「労働強化」を要求する徹頭徹尾反労働者的方針といわざるを得ません。

「自衛隊容認」の動労「本部」革マル

委員長・佐藤は、「国鉄を国鉄として維持（国鉄を守る＝国を守る）」し、「自らの職場と仕事を守る（動労革マルの職場と仕事だけ残ればいい）」ために「動労提言の実現を」と、動労組合員に当局の奴隷となって働き、産報化の尖兵になることを強要しているのです。

動労「本部」革マルの、ここ数年間にわたる産報化路線への転落の過程は、組合員の意識に忠実に反映されてきている象徴的事実も明らかとなりました。

この日、動労「本部」革マルは三四四三八人の組合員を対象に行った「意識調査」結果を発表しました。

調査結果によると、「自衛隊の存在について」で「必要」と回答した組合員が実に二三％、七九二〇人もいたということです。

さらに「わからない」と答えた人二〇％、六八八八人を加えると、「自衛隊反対」と答えられない組合員は四三％、動労「本部」組合員の半数近くを占めるという驚くべき事態が明らかになったのです。

われわれは、動労「本部」全国大会の前段で動労「本部」革マルの方針は、「国鉄を守るために当局の奴隷となって働こう」と称し、「働こう運動」を一歩進めた「労働強化」のうえに「労使会議」を要求するという、「分割・民営化」「経営参加」「産報化」に道を開く路線であると同時に、自衛隊、安保を承認したうえで政府・自民党、国鉄当局と一体となって国鉄労働運動破壊に生き残りをかける、反階級的路線であると暴露、弾劾したことの正しさが事実をもって証明されたといえます。

（以下次号につづく）

59.7.19 読売（全国）

余剰人員対策3本柱に
動労が柔軟姿勢

【秋田】秋田市で開いている動労（佐藤昭松委員長、四万人）の定期全国大会二日目の十八日午後、福原福太郎書記長は八四年度運動方針を提案、国鉄当局が余剰人員対策として持ち出した一時帰休、出向、動奨退職強化の三本柱について、「基本的には反対だが、団体交渉を徹底し、今化の行方に微妙な[illegible]るものとみられ[illegible]

三本柱につ[illegible]十月十日を期[illegible]はかろうとし[illegible]ら、動労執行部は[illegible]けでは現実的でな[illegible]具体論に踏み込んで[illegible]には反対してストラ[illegible]う」との立場を堅持し[illegible]

「自衛隊容認」組合員の2割
動労意識調査
秋田市で十七日から始まっ[illegible]
動労（佐藤昭松委員長、四[illegible]

「国鉄を守れ！」「企業あっての労働者」
そして遂に行きつく「お国を守れ！」

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！